

第 63 回日本先天異常学会学術集会 終了のご挨拶

残夏の候、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、2023 年 7 月 28 日（金）～30 日（日）につくば国際会議場において開催いたしました第 63 回日本先天異常学会学術集会におきましては、参加者の皆様、後援・協力をいただきました関連団体、ご協賛をいただいた各企業の格別なご支援とご協力のお陰によりまして、猛暑の中にもかかわらず、270 余名の参加者をお迎えし、盛会のうちに無事終了することができました。大会関係者一同心より感謝申し上げます。本学術集会を、はじめて、つくば市で開催させていただきましたこと、たいへん光栄に存じております。

「先天異常学研究におけるモデル動物の利活用」をテーマに、特別講演、海外招聘講演、教育講演、生殖発生発達教育セミナー、7 テーマのシンポジウム、企業によるランチョンセミナー、奨励賞受賞講演、一般優秀演題を含む 44 演題のポスター発表により合計 81 演題のご発表をいただきました。加えて、企業展示ならびに文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトの 11 リソースの担当機関により各種モデル動物に加えて疾患特異的 iPS 細胞、遺伝子材料、情報機関等の展示説明も行われ、講演会場ならびにポスター・展示会場共に、熱心な議論と活発な意見交換がありました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後となり、完全現地開催とさせていただきました。参加者の皆様には、連日の屋外の猛暑をしばし忘れて、久しぶりに顔を合わせての議論と情報交換を果たしていただけたのではないのでしょうか。

末筆ながら皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

2023 年 8 月吉日

第 63 回日本先天異常学会学術集会

大会長 **吉木 淳**